一、支那

△重慶空襲で聯盟に縋る（重慶紙）

一月十五日我方の重慶空襲は、支那側に多大の衝動を與へた模様で、十六日重慶發外電に依れは右は東亞新秩序建設第一歩の試練なりと皮肉り、爆死數三百乃至四百に及ふと公式に發表したか、同日重慶各紙は、何れも國際聯盟と右空襲を結付けて社説を掲け、聯盟に對し、日本の無差別的爆撃抑制及對支援助に關し、有效的措置方要望すると共に、一般市民の重慶引揚方勸告して居る由である。尚中國國民外交協會は、聯盟に日本に對する「がそりん」飛行機、鋼鐵及一切の軍用器材供給停止と支那に對する財政經濟上の援助及軍需品の自由通過並に、極東關係國に對し、對支援助に關する聯盟の決議を速日實施することの要請方を電請したるか、朱家驊、王世杰も新聞記者招待席上交々立つて、聯盟に對する希望として、右を敷衍強調し聯盟にして速に對日制裁を實施して居れは、今次の如き空襲に依る慘事を避け得たるへしと語つた由て

ある。

△英米佛の對日政策の一致（重慶電）

英國の對日通牒に關し一月十六日附、重慶電に依れは、外交部發言人は新聞記者の質問に對し、右は英國の對日態度の強硬性と日本側歴次の聲明に依るも、毫も悔悛或は欺瞞せらせさることを表示したのみならす、其の立脚點に於て、米國對日通牒と完全に一致し、近衛聲明と根本的に相容れさることを特に明確ならしめたるものてあるか、右通牒は英國側にて事前佛蘭西政府の了解を取付けた結果に基く由にもあり、既に九國條約主要署名國たる、英米佛の對日政策の一致を見たのは慶賀に堪へす。全く英米佛各國か、一致的或は並行動を執るに於て、始めて有效的制裁を實施し、九國條約に規定する極東の局勢を維持することを得へしと語つた由てある。

△外債支拂中止の是非（上海紙）

一月十八日「でいりーにゆーす」は、國民政府は日英協定か其の協議を經さるを理由とし、拒絕的態度を以て、右協定の履行を事